＜平成２６年度秋季大会ミニシンポジウム＞

頭足類学の創成−水産学における応用的基礎として−

日時・場所：平成 26 年 9 月 19 日（金）9:00〜12:00・（大会実施委員会にて記入します）
企画責任者　池田 譲（琉球大理）・宮崎多恵子（三重大院生資）

9:00〜 9:05	開会の挨拶	池田 譲（琉球大理）
		座長　宮崎多恵子（三重大院生資）
9:05〜 9:30	１．資源学からみた頭足類	木所英昭（水研セ日水研）
9:30〜 9:55	２．行動学からみた頭足類	杉本親要（琉球大院理工）
9:55〜10:20	３．脳神経科学からみた頭足類	滋野修一（JAMSTEC）
		座長　滋野修一（JAMSTEC）
10:20〜10:45	４．ゲノム科学からみた頭足類	吉田真明（国立遺伝研）
10:45〜11:10	５．古生物学からみた頭足類	和仁良二（横浜国大環境情報）
11:10〜11:30	６．頭足類学という可能性	池田 譲（琉球大理）
11:30〜11:55	総合討論	座長　池田 譲（琉球大理） 宮崎多恵子（三重大院生資） 滋野修一（JAMSTEC）
11:55〜12:00	閉会の挨拶	宮崎多恵子（三重大院生資）

企画の趣旨

頭足類は世界的に重要な水産資源であり，海洋生態系においても重要な役割を演じている。一方で，レンズ眼や巨大脳などを発達させた知的な無脊椎動物という一面をもつ。このような背景のもと 2004 年に本学会にてミニシンポジウム「頭足類学の胎動」が開催され，頭足類の様々な側面が議論された。そこで，その後の 10 年における当該分野の進展と水産学における応用的基礎としての可能性を展望するため本ミニシンポジウムを企画した。